

お知らせ

三宿病院 脳神経外科 てんかん外来

「てんかん」は脳神経細胞の過剰興奮がもとで繰り返し起こる「てんかん発作」を主徴とする慢性疾患です。

あらゆる年齢でおこり、有病率は人口の1%弱、生涯発病率は3~4%とも言われ最も頻度の高い神経疾患のひとつです。

治療が適切であれば6~7割の患者さんの発作は止まりますが、止まるべき発作が止まらず、薬物の副作用に苦しむ患者さんも多く見受けられます。

適切な薬物選択には、適切な「てんかん診断」が必要であり、「てんかん診断」の誤りは薬物選択の誤りに通じ、患者さんは合わない薬を飲み続けることになります。

一方、適切な薬物選択による治療にもかかわらず、長期にわたりてんかん発作が止まらない「難治性てんかん」の患者さんに対しては、外科手術による治療を検討します。ただし、すべてのてんかんに外科治療が可能であるわけではなく、画像検査・脳波検査など多岐にわたる検査を行った上で総合的に判断して治療方針を検討します。

これら適切な診断および治療のためには、専門的な知識・経験が必要です。

専門医が早い段階で診断・治療に関与すると、発作が早く止まり、生活の質が向上することが期待できます。

当院では7月より第2、4週月曜日の午前に“てんかん専門外来”を開始します。

問診、脳波、MRIによりてんかん診断を行い、適切な治療を選択します。

また、より詳細な検査や専門的な治療が必要と思われる方には順天堂大学てんかんセンターで検査・治療を進めることになります。

(当科外来へは同センターから脳神経外科医が派遣されております。)

この他にも、てんかん治療のみでなく社会福祉サービス、運転免許、就労、妊娠に関する相談にもお答えします。

受診に関してのご相談は病院職員にお尋ねください。